

生物多様性こうち戦略の策定について ～ふるさとのいのちをつなぐ こうちプラン～

平成26年2月18日 環境共生課

地球のいのち、つないでいこう

- ◆ **第1章**：こうちの自然
地形・気象条件、各エリア（山・川・里・海・まち）の特性
- ◆ **第2章**：こうちの生きもの
各エリアに生息・生育し、人間と共存してきた動植物
- ◆ **第3章**：こうちの人の暮らし
自然や生きものに囲まれて成り立ってきた一次産業や伝統文化など、
私たちの暮らし
- ◆ **第4章**：戦略策定の意義
生物多様性という概念、戦略策定に係る国内外の動向、
生物多様性の4つの危機
- ◆ **第5章**：高知県の課題
各エリアと4つの危機を照らし合わせて見た高知県の課題、
複合的・横断的な課題
- ◆ **第6章**：こうち戦略行動計画
戦略の理念、将来目標と行動期間、行動計画
- ◆ **第7章**：戦略の推進
役割分担・推進体制・進捗管理

【地理・地形・地質特性】

◆ 起伏に富んだ陸上・海底地形

山地率は89%で県北部には1500m以上の山岳が連なり、海底には海底谷や海丘が存在。

◆ 大断層で区分される地質構造

東西方向に走る御荷鉾構造線と仏像構造線により、地質構造は南北に3つに大別。

◆ 土佐湾沖を流れる黒潮

海岸線は太平洋に面し、その沖合を世界最大の暖流である黒潮が東流。

【気候特性】

◆ 温暖な海岸部、気温が低下する山間部

海岸部の日照時間は国内でも上位の長さで（年間2000時間以上）、年平均気温は17～18℃（夏の平均は25℃以上）と温暖。山間部の冬の平均気温は5℃以下まで低下。

◆ 豊富な降水量

山間部の年降水量は3000mm以上で、国内でも有数の多雨地域。



全国有数の森、川、海の県として高知県の自然環境
の基盤を形成し、多種多様な生態系を創出

【山】 ◆ かつての高度経済成長と共に県土の森林の65%は人工林となり、原生的な自然林が残されている地域はわずか。近年、管理が不十分な林地が増加。

◆ ニホンジカの個体数増加により、自然植生の被害が顕著。



増えすぎたニホンジカ

【川】 ◆ 治水・利水を目的とした河川改修やダム建設、木材需要に伴う森林開発などにより、地形、河床材料が単調化。

◆ 流域開発などを一因として、濁水の長期化や河道内の樹林化が発生。



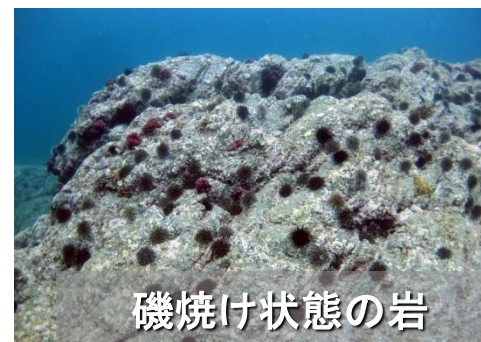
濁水が流れる川

【里】 ◆ 中山間地の里地里山では、人手不足により耕作放棄地が増加し、湿地が減少。

◆ 管理不足に伴い、竹林の拡大や外来植物の繁茂などが生じ、植生が単純化したほか、野生生物による農作物被害も増加。

【海】 ◆ 温暖化により高知県沿岸の海水温も上昇し、それを一因として藻場が消失（磯焼け）。

◆ 海岸には防災のための防潮堤や防波堤が造られ、一部の海浜ではそれを一因として砂収支のバランスが変化。



磯焼け状態の岩

【まち】 ◆ 高知市周辺に人口が集中してまちが拡大し、湿地や農地、緑地が数多く喪失。

◆ 高度成長期前後は、環境や自然、生態系への配慮視点が不足していたため、水質汚濁や緑地破壊など生態系への悪影響が生じた。

里

里地里山には、湿地性の植物やオオイタサンショウオなど希少な動植物が生息・生育し、夏鳥のヤイロチョウが飛来する。近年、湿地の減少や竹林の拡大など、生きもの生息環境が変化している。



オオイタサンショウオ

山

奥山の自然林には、ツキノワグマなどの哺乳類やクマタカのような猛禽類が生息。近年、人工林の拡大により、これらの生きもの生息域が狭まっている。



ツキノワグマ

川

河川には、アユのような通し回遊魚やアカメのような汽水域を生息場とする海と関わりの深い種が多く生息している。一部で減少しつつある干潟や海草藻場などはそれらを育む重要な環境となっている。



アカメ



アユ

まち

高知のまちには、緑が多く存在し、多くの野鳥が街路樹などを利用して生息している。まちには水辺も多く、水産重要種やコアマモ、シオマネキといった希少種など、都市の水辺としては希なほど多くの動植物が生息・生育している。



コアマモ

海

高知県沿岸には、カツオのような馴染み深い種をはじめとする様々な魚が出現し、ニタリクジラに代表される鯨類も頻繁に来遊する。近年では、温暖化の影響等により、海藻や造礁サンゴの動態に変化がみられ、それらに依存する多くの種の生息に影響が及んでいる。



卓状ミドリシ



ニタリクジラ

【自然とのふれあい】

高知県は自然豊かな地域であり、多くの県民は幼少期から自然とふれ合いながら暮らしてきた。近年、子どもたちや若い親世代の自然に対する関心が低下しており、多くの自然体験によって高知の環境を学ぶことができる教育・学習の場が必要となっている。



川遊びの様子

【第一次産業の現状】

◆ **農業**：夏季高温多雨、冬季温暖多照の気象条件をベースに、水稻、野菜、果実、畜産物などの生産が活発で特に施設園芸が盛ん。近年は農家数が減少傾向にあり、高齢化が進んでいる。

◆ **林業**：森林面積率が高く（全国1位）、古くから林野での営みが盛ん。しかし、山村の過疎化と木材価格の下落により、林業労働者が大きく減少し、森林の管理不足など水土保持上の問題が顕在化。

◆ **漁業**：カツオ漁、アユ漁などは全国的に有名。しかし、海面、内水面とも漁獲量が減少傾向を示すとともに、漁業者も減少。



かつての伐木風景



物部川・毛鉤釣り風景

【高知県の生物多様性の危機】

自然豊かな高知県においても、経済発展による都市化、第一次産業の担い手の減少、林地や農地の荒廃などの問題が発生。

生物多様性は以下に示す4つの危機に直面している。

- ◆ 開発など人間活動による危機
- ◆ 自然に対する働きかけの縮小による危機
- ◆ 人間により持ち込まれたものの危機
- ◆ 地球環境の変化による危機

【環境保全に対する動き】

高知県環境基本計画の策定、森林環境税の導入、「協働の森づくり」など先進的事業の展開、NPO活動の活発化など、自然環境の保全に配慮するという考え方は一般的に浸透してきている。

しかし、「生物多様性」という側面からは必ずしも充分でない部分があった。

【戦略策定のねらい】

県行政、県民、事業者、教育・研究機関、NPO等民間団体、市町村などあらゆる主体が共有できる基本方針が必要となり、**生物多様性の保全と持続的な利用に関する総合的な指針**として「生物多様性こうち戦略」を策定。

- 【山】** ◆ 天然林の減少 ⇒ 奥山環境の維持

◆ 人工林の手入れ不足 ⇒ 林業の活性化、担い手の確保

◆ ニホンジカ増加による植生への被害 ⇒ 個体数管理など有害鳥獣対策 など
- 【川】** ◆ 河川地形、河床材料の単調化 ⇒ 土砂・水の動きに配慮した川づくり

◆ 濁水の発生と長期化 ⇒ 山林保全など濁水発生源対策

◆ 外来種の分布域の拡大 ⇒ 外来種対策 など
- 【里】** ◆ 生きものの生息空間の変化・減少 ⇒ 農業従事者の確保と適正管理

◆ イノシシなどによる農作物被害 ⇒ 有害鳥獣対策

◆ 外来種の分布域の拡大 ⇒ 外来種対策 など
- 【海】** ◆ 砂浜の砂収支のバランスの変化 ⇒ 生態系に配慮した公共事業の推進

◆ 磯焼けの拡大 ⇒ 藻場の再生

◆ 造礁サンゴの成育不良 ⇒ 造礁サンゴ群集の再生 など
- 【まち】** ◆ 緑の消失と水質汚濁 ⇒ 環境に配慮したまちづくりの推進

◆ 温室効果ガスの発生 ⇒ 公共交通機関の利用など温暖化対策

◆ 一次産業の振興、伝統文化の継承

人手不足による第一次産業の衰退がみられ、担い手の確保が必要。一次産業と密接に関わる地域の伝統産業や食文化、祭事などの継承も重要。

◆ 生物情報の収集・共有

生物群集の調査不足、文献の未整理などにより、実態把握が不足。データ整理と蓄積・共有、研究体制の強化などが必要。

◆ 環境教育・人材育成

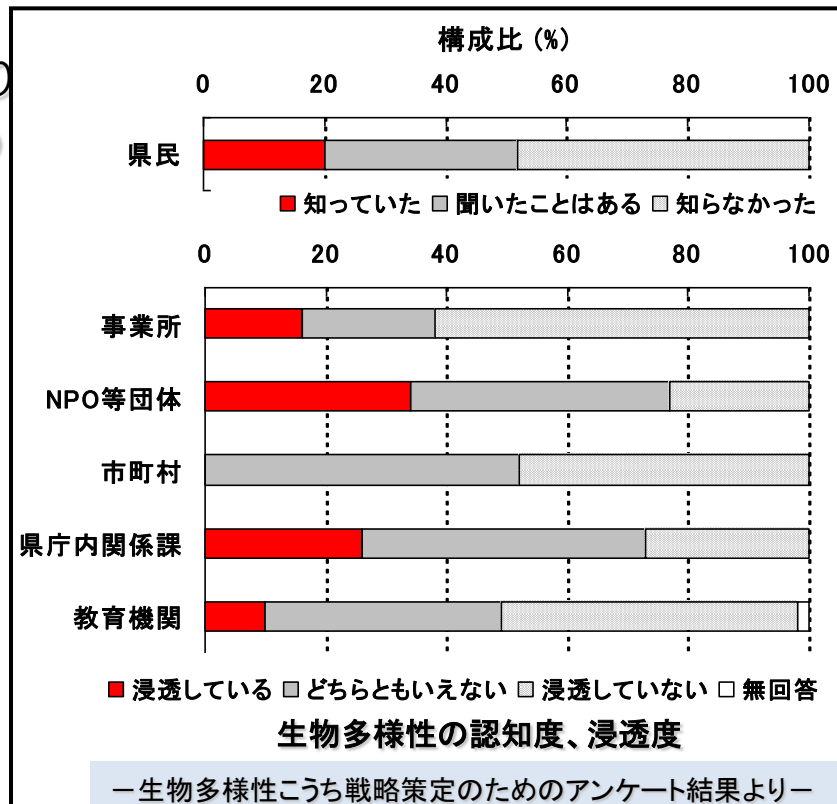
子どもたちや若い世代の自然離れが進行。

生物多様性の保全を継続させるためには、ひとりひとりが主体的に行動に移せる力が必要。地域や学校、NPO行政などの協働による環境教育の充実や指導者の確保・育成が重要。

◆ 生物多様性の認知度の向上

生物多様性への馴染みが薄く、生物多様性が身近な存在であることや、暮らしと生物多様性の関連性などが十分に理解されていない。

人々の暮らしの中で生物多様性に配慮した行動がとれるよう、生物多様性の意義の普及・啓発を効果的に行うことが必要。



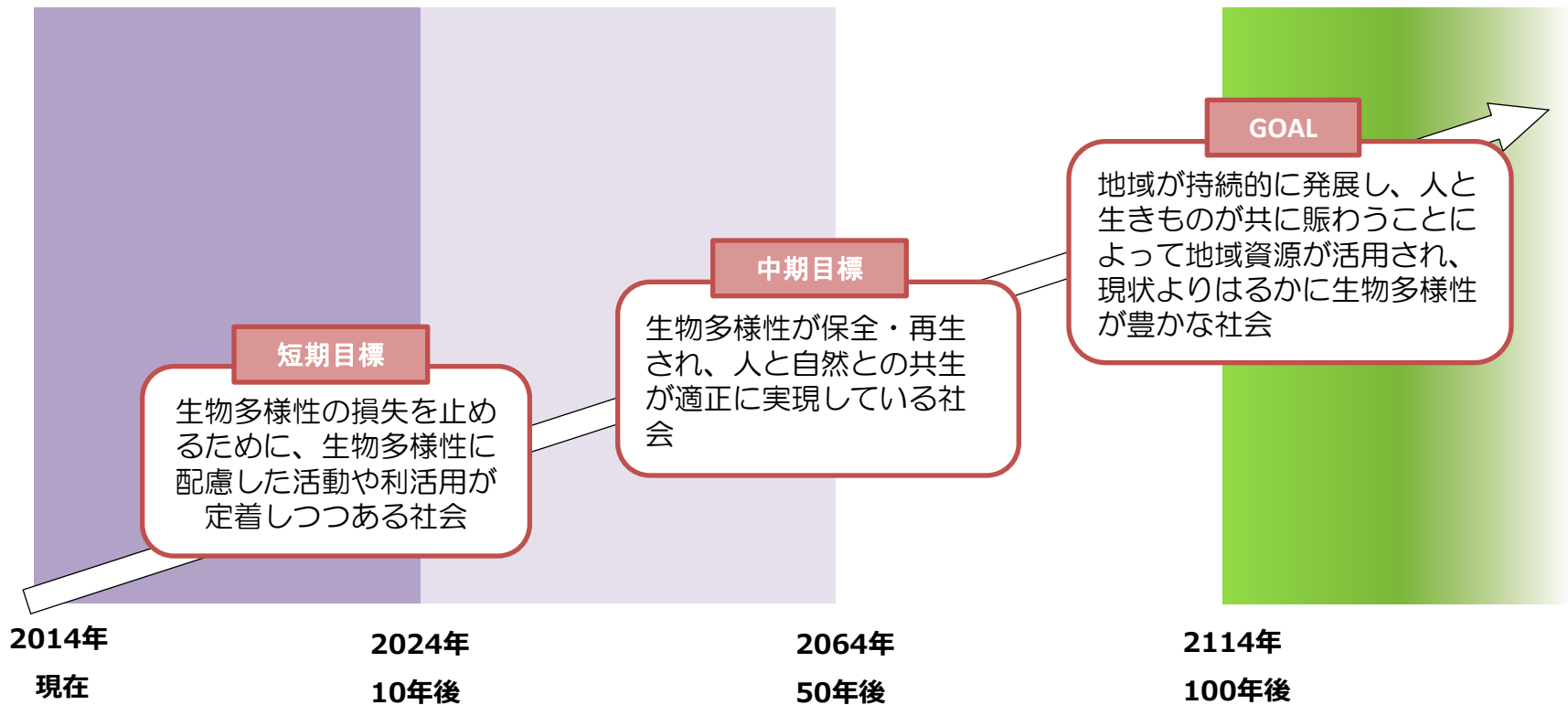
「ふるさと高知のすべてのいのちをつなぎ、私たちの手で責任を持って未来へ」。こうした考え方のもと、「生物多様性こうち戦略」では、森・川・里・海・まちの健全なつながりや生態系のネットワークを重視し、地域が持続的に発展していくことを目指して下記の基本理念を掲げ、取組を推進する。

ふるさととの いのちをつなぐ

～豊かな生きものの恵みを受けて

美味しく 楽しく ずっと暮らそう高知県～

生物多様性こうち戦略では、100年先を見据えた目標を定め、その目標実現のために10年を計画期間と設定する。今後の社会情勢の変化などを考慮しつつ予防的、順応的に取組を進めるため、原則として5年目に戦略の見直しを行う。





理念

ふるさとのいのちをつなぐ
～豊かな生きものの恵みを受けて 美味しく 楽しく ずっと暮らそう 高知県～

100年後

地域が持続的に発展し人と生きものが共に賑わうことによって地域資源が活用され、現状よりはるかに生物多様性が豊かな社会

50年後

生物多様性が保全・再生され、人と自然との共生が適正に実現している社会

10年後

生物多様性の損失を止めるために、生物多様性に配慮した活動や利活用が定着しつつある社会

1 知る・広める

生物多様性の価値を把握し、社会全体で共有する

- (1) 生物多様性の意義の普及・啓発
- (2) 地域の生物多様性から学ぶ教育の推進
- (3) 身近な自然とのふれあいの場の整備と五感で感じる機会の提供

2 つなげる

生物多様性を支え、次世代につなぐ仕組みと基盤をつくる

- (1) 生物多様性の調査と研究
- (2) 生物多様性保全・回復のための体制の強化

3 守る

自然環境の保全と回復を図る

- (1) すぐれた自然環境の保全と管理
 - ①森 ②川 ③里 ④海 ⑤まち
- (2) 希少野生動植物等の保護
- (3) 特定有害鳥獣の個体数管理と外来生物対策の推進
- (4) 生物多様性に配慮した公共工事の取組の推進
- (5) 地球温暖化の防止や循環型社会の構築へ向けた取組の推進

4 活かす

生物多様性の恵みを活かした地域産業の持続と活性化を促進する

- (1) 生物多様性に立脚した地域資源の活用の促進
- (2) 生物多様性に密接な関係を有する一次産業の強化

知る・広める

生物多様性の価値を把握し、社会全体で共有する

取組1：生物多様性の意義の普及・啓発

- 【事例】・HP、広報誌、イベント等を通じた生物多様性に関する情報を発信する
・自治体担当者や事業者対象の研修会を行い、生物多様性の理解の促進を図る

取組2：地域の生物多様性から学ぶ教育の推進

- 【事例】・生涯学習施設等において、多様な主体の協働により、子ども達と地域をつなげる教育を推進する

取組3：身近な自然とのふれあいの場の整備と五感で感じる機会の提供

- 【事例】・生きもの観察会、ネイチャーゲーム、間伐体験、グリーンツーリズムなど自然に触れる機会を提供する

つなげる

生物多様性を支え、次世代へつなぐ仕組みと基盤をつくる

取組1：生物多様性の調査と研究

- 【事例】・環境の変化に応じて高知県レッドデータブックを改訂する

取組2：生物多様性保全・回復のための体制の強化

- 【事例】・中山間地域住民の増加と定着、コミュニティ機能の維持・再生を図る
・助成金情報の提供や獲得支援、助成金の交付等により活動を支援する

守る

自然環境の保全と回復を図る

取組1：すぐれた自然環境の保全と管理

- 【事例】
- ・多様な樹種・林相を有する森林整備を推進する（森）
 - ・関係機関の連携により特定鳥獣の個体数管理を実施する（森）
 - ・土砂流出の軽減措置など濁水の発生源対策や長期化を軽減する対策に努める（川）
 - ・天敵等を活用した病害虫防除など環境への負荷軽減に配慮した農業を推進する（里）
 - ・磯焼けによる生態系の劣化を食い止めるため、造礁サンゴや海藻を捕食する生物の生息密度の監視と正常な密度の維持を図る（海）
 - ・下水道整備や地域住民による清掃活動等、まちの中の河川環境の改善を促進する（まち）

取組2：希少野生動植物等の保護

- 【事例】
- ・開発行為時の希少野生動植物への配慮について啓発する
 - ・高知県指定希少野生動植物種や保護区の実態に応じた見直しを行う

取組3：特定鳥獣の個体数管理と外来生物対策の推進

- 【事例】
- ・有害鳥獣の個体数管理の実施と被害の実情に合わせた対策を推進する

取組4：生物多様性に配慮した公共工事の取組の推進

- 【事例】
- ・文化環境評価システムの活用や環境アセスメントの実施など、生物多様性に配慮した事業を推進する

取組5：地球温暖化の防止や循環型社会の構築へ向けた取組の推進

- 【事例】
- ・太陽光、小水力、風力、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの導入促進や普及啓発を行う

活かす

生物多様性の恵みを活かした地域産業の持続と活性化を促進する

取組1：生物多様性に立脚した地域資源の活用の促進

【事例】・生物多様性に配慮した方法で生産・収穫した一次産品、その加工品などの利用を推進する

取組2：生物多様性に密接な関係を有する一次産業の強化

【事例】・南国ならではの特性を活かした新品種の研究や普及、IPM技術の導入による環境保全型農業への取組を進め、高付加価値農産物の生産拡大を図る

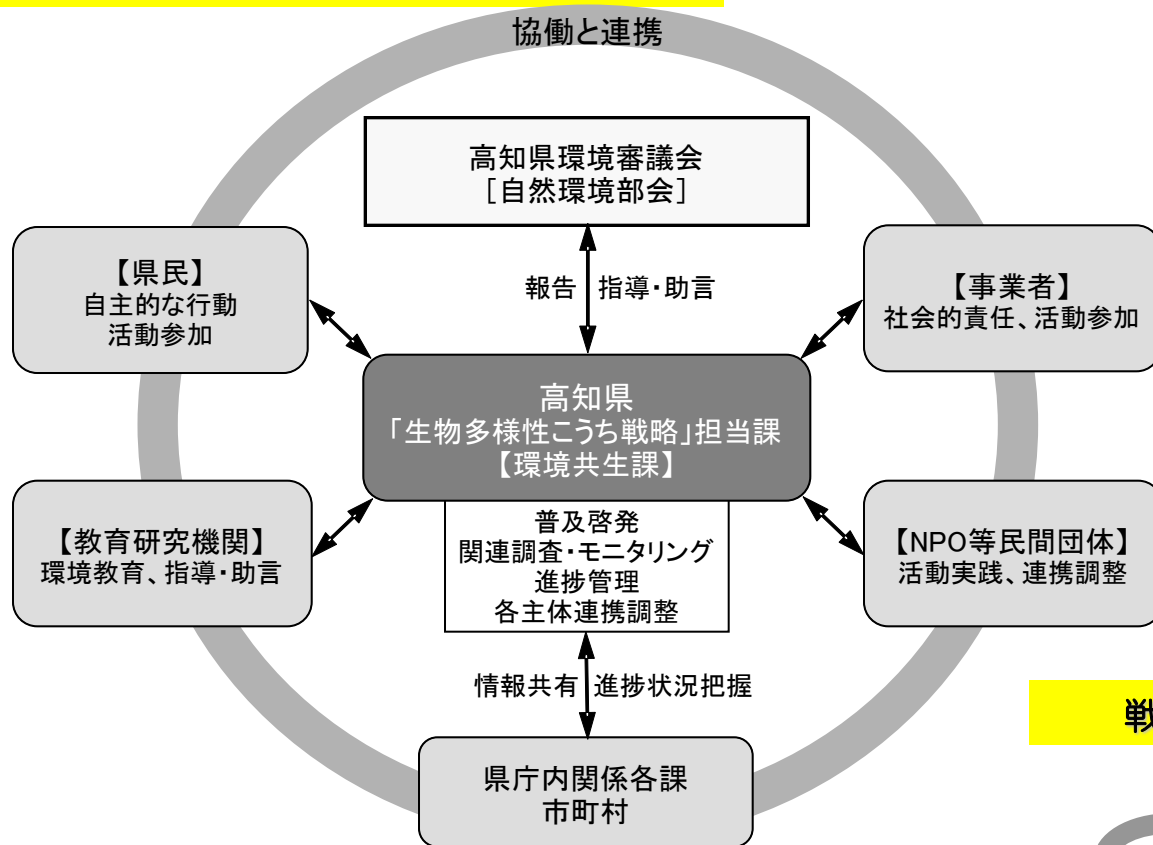
・山林所有者が山を自ら手入れする自伐林家等を育成し、支援する

・生物多様性に配慮し、長期的視点に立った漁業計画を策定できる指導者・技術者の確保と育成に努める

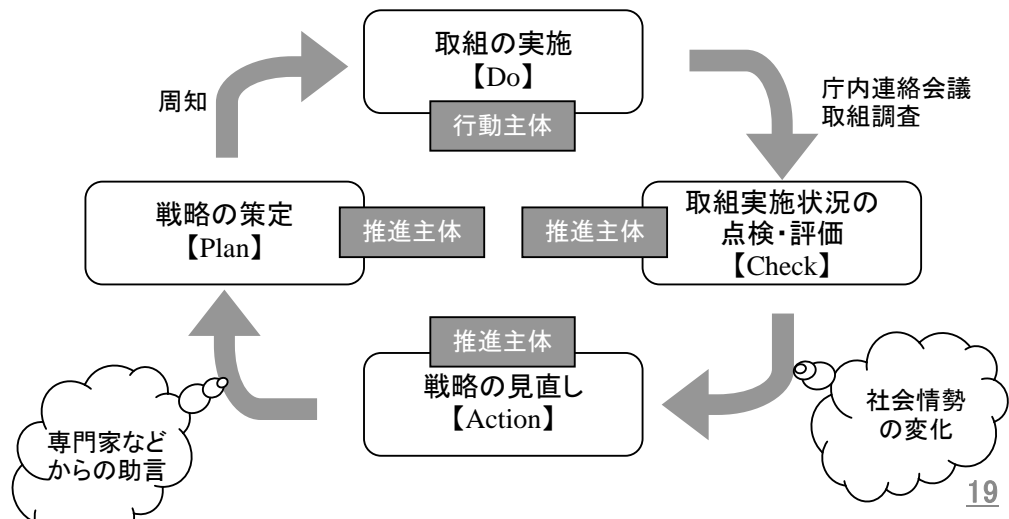
該当プラン	番号	内容	現状	目標
プラン1	目標1	生物多様性の認知度	平成24年度 20%	平成30年度 50%
プラン1 プラン2	目標2	生物多様性サポーターの登録者数	—	平成30年度末 50名
プラン1 プラン4	目標3	自然体験型観光施設等利用者数	平成24年 1,056千人	平成27年 1,100千人
プラン2 プラン3	目標4	高知県レッドリスト（動物編）の改訂 高知県レッドリスト（植物編）の改訂	平成12年作成 平成23年改訂	平成28年度末 平成32年度末 改訂
プラン2 プラン3	目標5	集落活動センターの設置数	平成24年度 6カ所	平成33年度末 130カ所
プラン2	目標6	協働の森・川・海づくり事業パートナーズ協 定締結件数	平成24年度末 53件	平成27年度末 60件
プラン3	目標7	保安林の指定面積	平成24年度末 112,729ha	平成35年度末 118,133ha
プラン3	目標8	FSC森林認証、SGEC森林認証制度の取得 件数	FSC森林認証2件 SGEC森林認証2件	現状以上
プラン3	目標9	有害鳥獣の年間捕獲頭数 （平成22～5年間）	平成24年度末 ニホンジカ 15,845頭	平成27年度末 ニホンジカ30,000 頭
プラン3	目標10	設置済の防護柵による植生保護効果	平成24年度末 75%	平成30年度末 80%
プラン3	目標11	県内の温室効果ガスの排出量	平成22年度 5,840千t-CO ₂ （暫定値）	平成32年度 5,996千t-CO ₂

該当プラン	目標	内容	現状	目標
プラン3	目標12	県庁の事務事業に伴う温室効果ガス排出量の削減	平成24年度 39,352t-CO ₂	平成27年度 28,857t-CO ₂
プラン3	目標13	園芸用A重油の使用量 (石油代替エネルギーの活用)	平成24年度 66,000kL	平成27年度 60,000kL
プラン3	目標14	県民1人当たりの1日のゴミ (一般廃棄物) 排出量	平成20年度 969g/日	平成27年度末 956kg/日以下
プラン4	目標15	農業産出額	平成23年産 958億円	平成33年産 1,050億円以上
プラン4	目標16	新規就農者数	平成23年度 234人	平成27年度 年間280人
プラン4	目標17	木材・木製品製造業出荷額	平成22年度 150億円	平成33年度末 200億円以上
プラン4	目標18	原木生産量	平成22年度 40.4万m ³	平成33年度末 81万m ³
プラン4	目標19	林業担い手数	平成24年度 1,661人	平成27年度末 1,732人
プラン4	目標20	森の工場の拡大	平成24年度 49,700ha (整備済面積)	平成27年度末 69,800ha (目標面積)
プラン4	目標21	戸建て住宅の木造率	平成24年度 88.2% (全国平均87.1%)	平成27年度末 全国平均以上
プラン4	目標22	沿岸漁業生産額	平成22年度 396億円	平成33年度末 400億円以上
プラン4	目標23	水産加工出荷額	平成22年度 162億円	平成33年度末 200億円
プラン4	目標24	土佐黒潮牧場数	平成25年度 15基	平成30年度末 体制維持 (機能強化)

関係主体の協働による推進体制



戦略の進捗管理に係るPDCAのサイクル



生物多様性こうち戦略の普及啓発に関する当面の取組（案）

- ◆ 「生物多様性こうち戦略」の概要版パンフレットの作成やHPなどによる情報発信（平成25年度以降、随時）
- ◆ 写真、絵画、作文など生物多様性をテーマとする県民参加のコンクール、展覧会の開催（平成25年度以降、随時）
- ◆ 「生物多様性こうち戦略」キックオフ・フォーラムの開催（平成26年度）
- ◆ 生物多様性をキーワードにしたワークショップや研修会の開催（平成26年度以降）
- ◆ 生物多様性サポーター制度の創設と活動支援（平成26年度以降）